

課題可視化システム構築

私とインターネットの出会いが小学5年の頃になる。転校したばかりで寂しかった私に遠く離れた友達と連絡が取れるインターネットは大切な場所だった。中学入学後は自分のHPを公開し、オンライン上で日記を書いていた(この習慣はブログとして今も続いている)。HTMLのソースを少し変えるだけでがらりとデザインを変えられることが面白くて、朝までパソコンにかじり付いていたこともあった。私が今の研究を志すことになったルーツは、その頃に

凛としていきる

理系女性の挑戦

未来への道を全力で進め

あると思う。

私の今の研究テーマは、企業や個人が所有するデータ、抱えている課題を共有するオンラインシステムを構築することで、お互いの課題解決を促進させることだ。このテーマはエンジニアとして勤務



していた時の悩みから生まれた。短期間で一つのシステムを複数人で開発しなければならぬとき、各自が抱えている課題を正確に共有し、おのおのが持つ知識や技術を最大限に展開する必要がある。

しかし、一部の人以上しか伝わらなかつたり違う内容で伝わっていたりと、人との情報共有は一筋縄ではいかない。SNSなどのコミュニケーション技術も発達し、情報共有の手段が豊富になった。

段は多くあるが、有効利用できる。人々の技術を活用して、人と人との情報共有を支援する仕組みがあれば、と思い始めたのがきっかけである。

何度かプログラムを書き直して、世界に一つのオンラインシステムを作り上げていく。企業の方々から「課題を可視化すると、課題間の思わぬつながりが見えて面白い」とお墨付きを頂けた時、うれしく思うと同時に

私はいろんな道を右往左往してきた。学部では応用化学、修士では医療システムを専攻していた。サークルではジャズピアノに没頭し、今も趣味で続けているが、一時期はジャズピアノに没頭していた。

書き直して、世界に一つのオンラインシステムを作り上げていく。企業の方々から「課題を可視化すると、課題間の思わぬつながりが見えて面白い」とお墨付きを頂けた時、うれしく思うと同時に

ゴールにつながるはずだから。企画協力・日本女性技術者フォーラム(JWEF)
(火曜日に掲載)

▽
東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻博士課程1年
谷中瞳
△



〈プロフィール〉13年東大院工学系研究科修士課程を修了後、野村総合研究所入社。15年東大院工学系研究科修士課程に進学。情報セキュリティエキスペシャリスト。JWEF学生会員。

サークルのOBとジャズセッション

今この道を歩むまでに

きつとこの道も未来の